

令和7年
2025年

7月14日
月曜日

第11753号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6か月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



CONTENTS

- ▶ 日本産牛肉の中国向け輸出再開に向け前進、日中動物衛生検疫協定が発効…………… P2
- ▶ 日本政策金融公庫仙台支店「ケーススタディで学ぼう！わかりやすい事業承継セミナー」を開催…………… P2
- ▶ 6月豪州産対日輸出量、合計2万6229tで11・3%減…………… P3
- ▶ ニチレイフーズが秋季新商品発表会を開催、業務用「ブロスハンバーグ」などリニューアル…………… P4
- ▶ 2027年5月「国際畜産総合展2027 from IPPS」を愛知県国際展示場で開催—中央畜産会…………… P4～5
- ▶ 2025年上半年「飲食店」の倒産は過去最多、3年連続で増加—TDB…………… P5
- ▶ 中国農業展望報告（2025～34）（豚肉編）、輸入量は縮小傾向か…………… P6
- ▶ 【東京食肉卸売市場】交雑牛は強気配、豚は高値継続か…………… P7
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】和牛4等級は強気、豚900円うかがう勢い…………… P7
- ▶ 鳥芳が新役員体制を発表、井元弘会長は退任…………… P7
- ▶ バローHD、愛知スーパーのドミニー買収へ…………… P7
- ▶ [資料]都道府県別と畜頭数（令和7年5月） P8～9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]11日…………… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]11日…………… P11

注目のヘッドライン

日本産牛肉の中国向け輸出再開に向け前進、日中動物衛生検疫協定が発効

政府は11日、中国政府から「動物の衛生および検疫における協力に関する日本政府と中華人民共和国政府との間の協定」の効力発生のために必要とされる同国の国内手続きの完了についての通告を受領した。

…詳細はP2

6月豪州産対日輸出量、合計2万6229 tで11・3%減

…詳細はP3



改訂新版 牛枝肉・部分肉の分割と商品化

職人の技 カラー写真 丁寧な解説

新刊 B5判/216頁

定価 5,500円 (税込) 送料別

食肉通信社

日本産牛肉の中国向け輸出再開に向け前進 日中動物衛生検疫協定が発効

政府は11日、中国政府から「動物の衛生および検疫における協力に関する日本政府と中華人民共和国政府との間の協定」(日中動物衛生検疫協定)の効力発生のために必要とされる同国の国内手続きの完了についての通告を受領した。これにより、同協定は同日発効された。

中国への牛肉輸出においては、2001年9月に日本でのBSE発生を受け、現在に至るまで、中国では日本産牛肉の輸入が停止されており、これまで農水省では、厚労省や外務省などと連携し、あらゆる機会において、中国向けの輸出解禁に向けた協議の実施を働きかけてきた。

10日には、岩屋毅外務大臣がASEAN関連外相会議に出席するためマレーシアを訪問。王毅中国外交部長と会談を行ったところ、日本産牛肉については、対中輸出再開に向けたプロセスを加速させるため、日中動物衛生検疫協定を早期に発効させることについ

て意思疎通を行ったとされていた。

日中動物衛生検疫協定は、国境を越える動物疾病の管理における両国の協力強化を通じて、動物および動物由来の製品の安全な取引を促進することを目的としており、日本産牛肉の対中輸出再開の前提となるもの。農水省では、今回の発効を踏まえ、早期再開に向けて、中国政府との間で関連の食品安全や放射性物質検査を含めた協議を引き続き推進していくとしている。

また、農水省食肉鶏卵課では、協定が発効された後、輸出施設の認定・登録など、いくつかのプロセスを踏んでいく必要はあるが、大きな一歩といえるだろうという声が上がった。

なお、日本産牛肉の輸出再開に当たっては、今後①中国側によるわが国の食品安全システムの評価②牛肉に関わる輸出条件の設定③輸出施設の認定・登録のプロセスが必要になる。

日本政策金融公庫仙台支店

「ケーススタディで学ぶ わかりやすい事業承継セミナー」を開催

日本政策金融公庫仙台支店および、TKC東北会宮城県支部は8日、日本政策金融公庫仙台支店を会場に創業、第2創業、事業拡大や事業譲渡の検討者を対象とした「ケーススタディで学ぶ わかりやすい事業承継セミナー」を開催した。セミナーは3部構成で、税理士の乾比呂人氏(写真)の講演に続き、事業承継支援の情報提供、個別相談会が行われた。

乾氏は講演で「事業承継で大きな要素となるのは三つ。『人の承継』『資産の承継』『知的財産の承継』だ。そしてどの業界にもいえることだが、特に畜産業界に顕著であることが、圧倒的なコミュニケーション不足である。天候や疫病、社会情勢により経営状況がマイナス方面に一変する可能性のある畜産業界では、当代と後継者候補間において、事業内の課題や対策を相談・共有しにくい傾向がみられる。古くからある『仕事ぶりをみて盗め』ではなく、会話による現状の棚卸しが必要であり、それにより自社の強みや弱



み、事業機会や事業脅威が浮き彫りになってくる。そういったコミュニケーションが難しいといったケースの場合は第三者として、われわれのような税理士などを間に入れることを勧めている」と述べた。

その後、日本政策金融公庫の行う「事業承継マッチング支援」の概要が説明され、成功事例として熊本市の精肉店「肉の木村屋」の事業譲渡事例が説明された。

6月豪州産対日輸出量、合計2万6229tで11・3%減

豪州農水林業省が公表した6月の豪州の食肉輸出量によると、食肉の総計は21万1671t(前年同月比19・2%増)と増加した。

畜種別にみると、牛肉は13万4596t(26・8%増)、ラムは3万2437t(4・1%増)、内臓類は2万2715t(24・7%増)、山羊は3955t(2・7%増)と

増加し、豚肉は2594tで前年並みだったが、マトンは1万5374t(1・3%減)と減少した。

対日輸出量(船積数量)は2万6229t(11・3%減)で、このうち牛肉は2万1876t(14・6%減)、マトンは292t(17・7%減)、内臓類は2414t(0・6%減)と減少したが、ラムは1556t(36・5%増)、山羊は90t(209・7%増)で前年を上回った。

牛肉の輸出数量を州別にみると、クイーンズランド州は6万8042t(21・9%増)、ビクトリ

ア州は2万7673t(34・9%増)、ニューサウスウェールズ州は2万5018t(26・3%増)。このうち日本向けは、クイーンズランド州が1万5216t(8・8%減)、ビクトリア州は2621t(26・9%減)、ニューサウスウェールズ州は2757t(29・9%減)といずれも減少した。

豪州の対日輸出数量(2025年6月)

(単位:トン、船積重量)

	日本向け計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	21,876	2,757	2,621	15,216	680	107	496
(前年同月比)	85.4	70.1	73.1	91.2	112.0	115.1	69.8
マトン	292	209	68	0	15	0	0
(前年同月比)	82.3	81.3	158.1	-	51.7	0.0	-
ラム	1,556	542	665	3	247	98	1
(前年同月比)	136.5	135.5	138.0	-	121.7	466.7	-
豚肉	0	0	0	0	0	0	0
(前年同月比)	-	-	-	-	-	-	-
内臓類	2,414	507	413	1,268	102	66	58
(前年同月比)	99.4	105.0	80.2	111.3	134.2	46.5	78.4
その他・計	26,229	4,015	3,797	16,547	1,045	270	555
(前年同月比)	88.7	79.2	82.0	92.5	114.2	96.1	70.6

豪州の食肉輸出数量(2025年6月)

(単位:トン、船積重量)

	豪州総計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	134,596	25,018	27,673	68,042	6,897	3,327	3,422
(前年同月比)	126.8	126.3	134.9	121.9	169.1	127.7	103.8
マトン	15,374	6,387	5,100	0	993	2,600	293
(前年同月比)	98.7	101.1	96.8	-	113.1	98.1	95.1
ラム	32,437	9,976	12,895	3	5,033	4,047	483
(前年同月比)	104.1	133.3	91.1	-	105.8	103.8	126.1
豚肉	2,594	678	425	172	386	929	0
(前年同月比)	100.0	102.0	94.7	75.8	145.1	94.2	-
内臓類	22,715	4,601	5,695	9,376	1,403	1,138	478
(前年同月比)	124.7	138.0	129.8	116.6	146.0	116.4	93.0
その他・計	211,671	47,490	53,120	79,300	14,782	12,058	4,676
(前年同月比)	119.2	122.8	114.6	120.3	134.8	108.5	103.8

2025年6月の船積み数量(6月30日時点)

(単位:トン)

主な輸出先国	牛肉	うちチルド	マトン	ラム	山羊	豚肉	内臓類	合計
日本	21,876	8,237	292	1,556	90	0	2,414	26,229
(前年同月比)	85.4	96.5	82.3	136.5	309.7	-	99.4	88.7
韓国	19,343	3,007	374	1,710	892	0	2,617	24,936
(前年同月比)	120.2	111.2	185.9	129.1	138.1	-	111.3	120.9
台湾	2,967	454	205	249	367	0	379	4,166
(前年同月比)	115.1	102.3	51.6	117.2	157.6	-	156.5	113.1
米国・東部	28,590	8,548	622	5,825	1,205	0	1,332	37,573
(前年同月比)	124.8	122.2	343.6	97.5	58.2	-	106.8	116.0
米国・西部	6,641	875	196	1,430	47	0	91	8,404
(前年同月比)	113.7	95.2	434.7	91.9	34.5	-	99.5	109.6
EU	2,723	2,102	1,002	2,044	23	0	88	5,879
(前年同月比)	217.8	168.2	153.9	117.6	-	-	44.0	153.2
その他・計	134,596	33,413	15,374	32,437	3,955	2,594	22,715	211,671
(前年同月比)	126.8	124.1	98.7	104.1	102.7	100.0	124.7	119.2

資料: 豪州農水林業省

ニチレイフーズが秋季新商品発表会を開催 業務用「ブロスハンバーグ」などリニューアル

ニチレイフーズは11日、「ニチレイフーズ2025年秋季新商品発表会」を開催し、同社を取り巻くマーケットの概況と、新商品、リニューアル商品について発表を行った。

24年は、消費支出に占める食費の割合(エンゲル係数)が43年ぶりの高水準を記録するなど、物価高騰を実感した1年となったが、家庭用冷凍食品は、購入数量が前年を上回ること、市場規模は105%(インテージ調べ)と伸長し、10年連続で過去最高を更新した。今後も物価上昇基調が続く、食の楽しみが抑制される傾向が予想されることを受け、ニチレイフーズは、「生活必需品である冷凍食品で、毎日の食を豊かに彩ってほしい」という思いから、25年秋季の開発テーマを「私の“好き”を叶える食卓-Favorite Meal Solution~」と定めている。「新規需要へ向けたワンプレート」「満足感のある主食の個食」「食卓を彩るバラエティおかず」を中心に拡充を図る。新商品として「三ツ星プレート 回鍋肉&麻婆麺」「日比谷松本楼監修 ビーフシチュードリア」などを投入する。

また、外食給食産業・量販店総菜を中心とした業務用マーケットは、単身世帯の増加、女性・高齢者の就業率向上を背景とした「食の外部化」の進行により伸長しており、25年4月に訪日外国人旅行者数が過去最高を記録し、インバウンド需要が外食業態へ



もたらず影響が大きくなっている。総菜業態においても、行楽需要や食の外部化需要を取り込み、堅調に推移した。

一方で、各業態の人手不足は深刻化しており、今後、手作りから加工食品への切り替えが進むと予想される。このような環境下、ニチレイフーズはおいしさ再現力を生かした、調理オペレーションの効率化と均一化、品質の安定を追求し、幅広いメニューに汎用できるよう加工度に幅を持たせた商品の投入を行う。ラーメン・中華業態などをターゲットに、冷凍状態から炒めるだけで、誰にでも本格的なチャーハンが調理可能な新商品「お店で炒めるベースチャーハン」を投入する。既存の肉厚で手作り感のある焼成ハンバーグ「ブロスハンバーグ」(写真)は、食べた際のほぐれ感を向上し、ブイヨンジュレを配合することでよりジューシーにリニューアルを図る。

2027年5月「国際畜産総合展 2027 from IPPS」を 愛知県国際展示場で開催——中央畜産会

公益社中央畜産会は30年余りにわたり催されてきた「国際養鶏・養豚総合展 (IPPS)」を継承し、新たに肉用牛、酪農も加えたオール畜産による総合展「国際畜産総合展2027fromIPPS」を愛知県国際展示場(愛称=Aichi Sky Expo、愛知県常滑市)で2027年5月19~21日に開催する。

10日にはメディア向け説明会を開催し、「わが国の畜産業が抱える、担い手の不足・高齢化、円安による資機材の高騰、研究者・技術者の減少といった諸課

題に対処するためには、畜産業に関わるすべての関係者が一堂に会し、最先端の技術・情報などを共有する場を持つことが急務である。国際養鶏養豚総合展が築いてきた実績を基に畜産の総合展へと拡大・発展させることにより、従来出展のなかった分野からの新規出展、異畜種・異業種間の交流による新たなイノベーションの創出、研究発表の場を拡充させることにより、新たな研究開発や産学連携による技術実装、高校生・大学生といった若い世代にアプローチ

することで、新たな担い手の育成といったさまざまな成果が期待できる。世界と肩を並べ、世界に向けてオール畜産での日本の技術力を情報発信することにより日本の畜産業のさらなる発展、引いては食料自給率の向上へとつなげる」と目的を述べた。今年秋には出展案内、26年1月には出展申し込みを開始(予定)し、26年秋には出展者説明会を開催する。

「国際養鶏・養豚総合展(IPPS)」は1992年、「出展者が展示しやすい価格で、出展者も来場者も満足する展示会」を目指し、養鶏協会、養豚協会、畜産施設機械協会が中心となり国際養鶏養豚総合展運営協議会を組織、協議会独自の展示会となる「第1回国際養鶏養豚総合展(IPPS)1992」を愛知県名古屋市吹上ホールで開催(66社・団体が出展、8千人が来場)。以降、3年に1度のペースでの開催を計画したが、2004年には鳥インフルエンザ、10年には口蹄疫の発生、また21年には新型コロナウイルスのまん延などの理由により、延期、中止を余儀なくされた。しかし24年、主催を任意団体である協議会から中央畜産会に移し、施設・機械部会の事業に位置付



け「第10回国際養鶏養豚総合展(IPPS)2024」を名古屋市国際展示場ポートメッセなごやで開催した(216社・団体が出展、2万3298人が来場)。

中央畜産会は愛知県国際展示場の優位性として、愛知県の全面的な協力が得られたほか、国内唯一の常設保税展示場で、空港隣接の立地により交通利便性が高く、屋内続き間で5万㎡、屋外3・6万㎡の大展示場(ポートメッセ名古屋は2万㎡、屋外展示場なし)で、大型厨房施設により展示場内での調理、提供が可能であることを挙げた。

2025年上半期「飲食店」の倒産は過去最多、3年連続で増加—TDB

帝国データバンク(TDB)は「飲食店」の倒産動向について調査・分析を行った。それによると、2025年上半期の飲食店の倒産(負債1千万円以上、法的整理)は458件発生し、前年同期(435件)を5・3%上回り3年連続で増加した。年上半期として過去最多を更新し、通年で初の900件台に達する可能性もある。食材費や人件費など運営コストの増加で収益確保のメドが立たず、事業継続を断念するケースが多くみられた。今後も経費の高騰や賃上げなどで収益が圧迫され、中小・零細事業者を中心に倒産の増加が続く見通し。

業態別にみると、居酒屋を主体とする「酒場・ビヤホール」が105件で最も多かった。前年同期(112件)から6・3%・7件減少したものの、2023年以降3年連続で100件を超える高水準での推移となった。町中華のほかラーメン店や焼き肉店、カレー店などの業態が中心となる「中華・東洋料理店」(88件)は、前年同期(78件)から12・8%・10件増加し、過去最

多だった。特に増加が目立つのは「日本料理店」(46件)で、前年同期(30件)から53・3%・16件の大幅増となり、上半期として初めて40件を超えて過去最多となった。団体客の減少や節約志向の高まり、経費削減による企業の接待需要の縮小などが逆風となった。こうした経営環境の中、日本料理店では若年層の顧客取り込みを目的に価格を重視したメニューや、見た目にこだわった料理の開発を進めているものの、一方で古くからの常連客が徐々に離れるといった状況にも直面し、難しいかじ取りを迫られた。

飲食店の倒産要因をみると、コロナ禍で受けたダメージから回復途上にある中で、特に食材費や人件費など運営コストの増加が影響し、収益確保のメドが立たなくなったことで事業を諦めるケースが多くみられた。各年1~6月(上半期)ベースでみると、25年は飲食店の倒産全体のうち約1割に相当する50件が「物価高」に起因した倒産だった。

中国農業展望報告(2025～34)(豚肉編)、輸入量は縮小傾向か

中国農業農村部はこのほど、中国農業展望大会を開催し、今後10年間の農業を展望する「中国農業展望報告(2025～34)」を発表した。同大会は毎年開催されており、今回は24年の総括と34年までの農畜水産物の生産量や消費量の見通しが報告された。同報告のうち、豚肉について紹介する。

24年の生産量は、5706万tと前年をわずかに下回った。年間と畜頭数は7億300万頭となり、四半期ごとのと畜頭数も減少した。また、24年末の繁殖母豚頭数は4078万頭となり、引き続き減少しているものの、適切とされる水準をやや上回っている。

輸入量は、107万tと前年を大幅に下回った。同年の輸入量は、豚肉消費量の減少と国内外の豚肉価格差の縮小に加え、EU産豚肉に対するアンチダンピング調査の実施などの影響を受けて減少した。主な輸入先はブラジル、スペイン、カナダおよびオランダであり、これら上位4カ国で6割以上を占めている。

消費量は、5801万tと前年をわずかに下回った。減少の要因としては、人口減少や牛肉・羊肉価格下落に伴う他の食肉への需要の移行などとされている。このような食肉消費の多様化といった食生活の変化から、豚肉の1人当たり消費量は31・8kgとなった。また、消費量のうち加工仕向量は1053万tとなった。

価格面では、24年の豚肉平均価格は前年比7・4%高のキロ当たり27・7元(563円、1元=20・31円)となった。同価格の推移をみると、23年末から24年1月までは下落傾向にあり、2月は春節需要により上昇したものの、3月は春節後の豚肉消費の落ち込みから再び下落した。4月から9月にかけて、養豚業者の出荷先延ばしに加え、2次肥育の実施により、豚肉供給量が減少したことで上昇し、9月には年間最高価格となる31・4元となった。一方、10月以降、前期の出荷の先延ばし分や2次肥育による大型生体豚の出荷増に加え、暖冬による加工食品の製造期間短縮により、再び需給は緩和に転じて27・9元にまで下落した。

25年の豚肉生産は、24年末からの養豚農家の収益改善と減少していた繁殖母豚頭数が増加に転じることで、5750万tと前年をわずかに上回ると見込まれている。また、国内の豚肉価格下落に伴う豚肉輸入

量の減少、EU産豚肉に対するアンチダンピング調査の実施から、豚肉輸入量は78万tと、引き続き減少が見込まれている。

消費量は5816万tと前年並みとなり、うち直接消費量は4450万t、加工仕向量は1091万tとされている。加工向けの増加は、豚肉価格の下落に伴う備蓄や加工向け冷凍在庫の増加によるものとされている。

価格面では、豚肉の供給量は増加し、一定の消費需要が維持されることから、豚肉価格はキロ当たり26～27元の範囲で推移が見込まれている。今後は、豚肉の需給が徐々に安定し、飼養技術の向上や豚肉製品の品質とブランド力の向上により、価格の変動幅は縮小するとみられている。

今後の豚肉生産量は、豚肉の品質向上と効率化を推進するものの、生産調整などにより減少するとみられている。これにより、29年の豚肉生産量は5592万t、34年には5452万tと予測されている。

国内の養豚は、規模拡大、養豚場でのAI導入など、先端技術によるデータ管理化が進み、長期的には情報通信技術の向上により、サプライチェーンで市場の需要に応じた生産調整が行われるようになるとみられている。また、豚肉生産は数量の重視から品質・効率の重視へと転換していく中で、需給は均衡を保つと考えられている。

消費量は、人口減少、食生活水準の向上や食肉消費の多様化などにより、引き続き減少するとみられている。この結果、29年の消費量は5632万t、1人当たり消費量は31・1kg、34年の消費量は5492万t、1人当たり消費量は30・3kgと予測されている。一方、国民の食生活水準の向上や健康志向の高まりに加え、食肉需要の地域性が強まることで、ブランド製品などを中心に引き合いが強くなると考えられている。

輸入量は、国内の豚肉生産と消費の調和により徐々に減少すると見込まれるものの、輸入骨付き豚肉は一定の需要が見込まれ、29年の輸入量は50万tとなり、34年も50万tとなると予測されている。

価格面では、豚肉供給の安定化と生産コストの増加などにより、長期的には価格の変動幅が縮小する中、やや上昇と予測されている。(農畜産業振興機構)

【東京食肉卸売市場】交雑牛は強気配、豚は高値継続か

[牛] 1週目は大きな共励会があったこともあり、6月の加重平均をおおむね上回ったが、前週も和牛、交雑牛ともに相場を維持した。末端需要は低調で、「価格決戦でなんとか動かしている」(卸)との声もきかれ、とくに和牛のロース、ヒレは荷動きが鈍い状況が続いている。比較的バラは動いており、一部ではカタロースの焼き材需要も出てきているよう。交雑牛は和牛に比べると堅調だが、余剰感はない。

今週は370頭ほどの上場が予定されている。週末に3連休を控えており、また、盆向けの手当ても始まることから交雑牛はやや上げてくるか。和牛去勢A5は2400~2500円、A4は2100~2200円、A3は2千円前後、交雑牛去勢はB4が1600~1700円、B3が1550~1650円と予想する。来週からは夏休みが始まり学校給食がなくなる。乳牛はやや落ち着くか。

[豚] 連日の猛暑の影響から全国的に出荷頭数は低調に推移。全国と畜頭数は依然として5万頭台となっており、枝肉相場も歴史的な高騰が続いている。前週もさらに相場は上昇傾向となり、上物のみならず、中物価格も900円を上回る価格を付けた。

高温が続き、肉豚への負担も大きく、増体が難しくなっている。予定されている出荷がキャンセルされるケースが増えており、地方からの手当ても入ることから、実需以上に相場が上昇している。需要の端境期で末端の荷動きが好調というわけでもなく、また量販店などでは国産物の高騰を受けて輸入物へシフトするケースも増えているが、供給量が不足している。

今週は関東では梅雨の戻りも予想されているが、今後も基本的には厳しい暑さが継続するとみられる。週末からは3連休も控えており、高値継続か。

【大阪市食肉卸売市場】和牛4等級は強気、豚900円うかがう勢い

[牛] 黒毛和牛5等級相場がなかなか上がってこない。それに対し4等級は5等級に迫る価格を付けている。4等級の発生率が減少する中、より希少性が高まっており、この先の引き合いも強いとみられる。引き続き5等級に迫る価格を維持する見込み。

交雑牛価格は和牛価格に連動することなく、独自に高値をキープしている。B3等級で1550~1650円

を安定して保っている。和牛4等級同様、この先も一定の価格を維持する見通し。

[豚] 前週は800円台後半の価格となっており、このまま900円台に突入しそうな勢いがある。まだこれから夏本番という時期であり、豚の生育への影響は今後も続きそうだ。7月いっぱいかなりの高値で推移するだろう。今週も高値圏でのもちあいとみる。

鳥芳が新役員体制を発表、井元弘会長は退任

大阪の食鳥小売大手の(株)鳥芳はこのほど、取締役会において役員体制を変更した。新体制は次のとおり。代表取締役社長 井元克典▷専務執行役員 山中

幸治▷常務執行役員 勝田暢之、橋本良治▷執行役員 木下裕二、中塚寛、財部俊也。なお、取締役会長を務めていた井元弘氏は退任する。

バローHD、愛知スーパーのドミー買収へ

スーパーマーケット事業を展開するバローホールディングスは7日、同業のドミー(愛知県岡崎市)に公開買い付け(TOB)を行うと発表した。バローはPB商

品の導入拡大や商品の共同調達、客層を考慮した店舗開発、物流センターの相互活用などのシナジー効果を見込んでいる。

[資料] 都道府県別と畜頭数 (令和7年5月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成 牛							
			計	和 牛			乳 牛			
				小計	雌	去勢	雄	小計	雌	
全 国 (1)	1,297,245	85,027	84,643	43,093	21,144	21,916	33	21,362	12,503	
北 海 道 (2)	116,498	18,339	18,152	1,475	644	825	6	12,923	6,671	
青 森 (3)	86,466	2,345	2,344	722	350	371	1	736	105	
岩 手 (4)	29,020	1,305	1,300	855	436	417	2	167	150	
宮 城 (5)	29,413	1,345	1,338	962	470	492	-	247	229	
秋 田 (6)	24,400	342	341	307	113	194	-	5	1	
山 形 (7)	32,091	1,132	1,132	941	796	144	1	25	25	
福 島 (8)	15,773	254	254	222	155	67	-	22	20	
茨 城 (9)	83,263	3,391	3,325	1,101	541	560	-	1,219	996	
栃 木 (10)	32,412	954	941	307	191	116	-	339	303	
群 馬 (11)	51,811	1,253	1,251	314	104	210	-	71	19	
埼 玉 (12)	44,714	2,818	2,806	936	455	481	-	894	840	
千 葉 (13)	68,695	1,560	1,534	177	110	67	-	523	388	
東 京 (14)	17,842	7,018	7,018	5,532	2,308	3,224	-	18	3	
神 奈 川 (15)	44,850	1,378	1,378	749	349	400	-	126	104	
新 潟 (16)	34,258	166	156	90	25	64	1	8	8	
新 富 山 (17)	6,771	82	82	44	14	30	-	4	2	
石 川 (18)	2,829	426	423	181	82	99	-	105	81	
福 井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山 梨 (20)	2,947	400	396	202	124	78	-	90	90	
長 野 (21)	9,715	393	392	164	77	87	-	74	72	
岐 阜 (22)	7,388	1,114	1,114	758	242	516	-	162	146	
静 岡 (23)	16,237	613	611	222	137	85	-	50	50	
愛 知 (24)	45,856	1,299	1,290	442	228	214	-	109	47	
三 重 (25)	12,303	696	695	539	523	16	-	123	113	
滋 賀 (26)	-	665	665	537	418	119	-	8	2	
京 都 (27)	1,710	1,076	1,076	861	544	317	-	6	6	
大 阪 (28)	1,854	1,978	1,977	1,055	543	512	-	246	53	
兵 庫 (29)	7,925	5,273	5,268	3,960	2,392	1,566	2	521	342	
奈 良 (30)	591	225	225	83	75	8	-	118	69	
和 歌 山 (31)	-	24	24	10	6	4	-	-	-	
鳥 取 (32)	5,331	390	388	151	69	82	-	190	57	
島 根 (33)	6,996	274	274	155	65	90	-	62	55	
岡 山 (34)	5,798	677	677	219	165	53	1	343	266	
広 島 (35)	4,702	1,363	1,358	348	185	163	-	387	260	
山 口 (36)	-	144	144	32	25	7	-	48	36	
徳 島 (37)	17,607	490	488	224	93	131	-	33	30	
香 川 (38)	12,572	1,513	1,513	393	140	253	-	134	41	
愛 媛 (39)	14,201	192	192	102	49	53	-	42	6	
高 知 (40)	7,711	205	205	104	41	62	1	11	11	
福 岡 (41)	16,932	4,419	4,419	3,447	1,835	1,611	1	241	164	
佐 賀 (42)	6,141	451	451	439	162	277	-	7	6	
長 崎 (43)	44,897	1,548	1,544	1,046	459	585	2	232	92	
熊 本 (44)	11,983	2,785	2,785	1,992	813	1,171	8	325	317	
大 分 (45)	11,598	566	566	403	195	206	2	50	25	
宮 崎 (46)	77,432	4,242	4,232	3,098	1,434	1,664	-	173	58	
鹿 児 島 (47)	201,744	7,554	7,549	6,870	2,801	4,065	4	127	127	
沖 縄 (48)	23,968	350	350	322	161	160	1	18	17	

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(単位：頭)

成牛										子牛	馬
乳牛		交雑牛				その他の牛					
去勢	雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄		
8,853	6	20,114	9,572	10,539	3	74	40	22	12	384	730
6,249	3	3,715	1,449	2,266	-	39	27	12	-	187	3
631	-	886	461	425	-	-	-	-	-	1	64
17	-	276	87	189	-	2	-	2	-	5	-
18	-	128	79	49	-	1	-	1	-	7	-
4	-	29	23	6	-	-	-	-	-	1	8
-	-	166	52	114	-	-	-	-	-	-	21
2	-	10	10	-	-	-	-	-	-	-	164
223	-	1,005	443	562	-	-	-	-	-	66	3
36	-	295	78	217	-	-	-	-	-	13	-
52	-	866	570	296	-	-	-	-	-	2	3
54	-	975	449	526	-	1	1	-	-	12	-
134	1	834	511	323	-	-	-	-	-	26	-
15	-	1,468	662	806	-	-	-	-	-	-	-
22	-	503	294	209	-	-	-	-	-	-	-
-	-	58	26	32	-	-	-	-	-	10	-
2	-	34	21	13	-	-	-	-	-	-	-
24	-	137	114	23	-	-	-	-	-	3	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	104	102	2	-	-	-	-	-	4	39
2	-	154	59	95	-	-	-	-	-	1	1
16	-	194	49	145	-	-	-	-	-	-	7
-	-	339	149	190	-	-	-	-	-	2	-
62	-	739	422	317	-	-	-	-	-	9	-
10	-	33	27	6	-	-	-	-	-	1	-
6	-	120	39	81	-	-	-	-	-	-	-
-	-	208	161	47	-	1	1	-	-	-	-
193	-	675	276	399	-	1	1	-	-	1	-
179	-	784	551	233	-	3	-	-	3	5	-
49	-	24	12	12	-	-	-	-	-	-	1
-	-	14	14	-	-	-	-	-	-	-	-
133	-	47	21	26	-	-	-	-	-	2	-
7	-	57	26	31	-	-	-	-	-	-	-
77	-	115	67	48	-	-	-	-	-	-	-
127	-	623	346	277	-	-	-	-	-	5	-
12	-	63	54	9	-	1	1	-	-	-	-
3	-	231	20	211	-	-	-	-	-	2	7
93	-	986	496	490	-	-	-	-	-	-	-
36	-	48	26	22	-	-	-	-	-	-	-
-	-	90	13	77	-	-	-	-	-	-	7
76	1	730	249	481	-	1	-	1	-	-	95
1	-	3	3	-	-	2	1	1	-	-	-
140	-	265	142	120	3	1	1	-	-	4	-
8	-	460	134	326	-	8	3	-	5	-	306
25	-	112	81	31	-	1	1	-	-	-	-
115	-	958	484	474	-	3	1	2	-	10	1
-	-	551	218	333	-	1	1	-	-	5	-
-	1	2	2	-	-	8	1	3	4	-	-

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 7月11日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,270	2,515	-	-	-
		安値	2,213	2,110	-	-	-
		平均	2,465	2,262	2,028	-	-
	57頭	頭数	45	11	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,350	2,370	2,107	-	-
		安値	2,196	2,133	1,981	-	-
		平均	2,549	2,207	2,056	-	-
	147頭	頭数	115	26	6	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,536	1,506	1,384	
	10頭	頭数	-	2	5	3	
	雌 C	平均	-	-	-	-	
	-頭	頭数	-	-	-	-	
去 B	平均	-	1,683	1,578	1,471		
27頭	頭数	-	9	11	7		
去 C	平均	-	-	1,467	1,379		
2頭	頭数	-	-	1	1		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	386	628	-	(競り)	(相対)	
売買	322	841	200.5	-	6	67

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,546	1,562	1,514	1,398	1,158
	B	-	-	-	1,357	1,224
和 去	A	2,539	2,191	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,050
	C	-	-	-	1,045	1,033
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,532	1,510	1,444	-
	C	-	1,680	-	1,315	-
交 去	B	-	1,625	1,514	1,426	-
	C	-	-	-	1,313	811

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	940	972	964	929	843
	安値	918	890	800	464	315
	平均	930	919	904	809	526
	頭数	(7)	(355)	(310)	(90)	(79)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入相対	高値	-	962	-	-	-
安値	-	962	-	-	-	
平均	-	962	-	-	-	
頭数	(-)	(6)	(-)	(-)	(-)	

[大阪食肉卸売市場] 7月11日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,777	2,273	-	-	-
(頭数)	(12)	(4)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)
和 去 A	2,717	2,131	1,947	-	-
(頭数)	(45)	(6)	(1)	(-)	(-)
B	-	2,082	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	1,298	1,223	-
交雑雌 B	-	1,773	1,592	1,505	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	-	1,688	1,630	1,557	-
C	-	1,624	-	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	7月11日	7月10日	(7月累計)
豚	52,800	58,700	505,700
成牛計	4,190	3,600	37,200
和牛雌	1,000	920	9,580
和牛去勢	950	1,030	9,930
乳牛雌	670	640	5,500
乳牛去勢	290	410	3,850
交雑雌	560	260	3,940
交雑去	720	340	4,350

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 7月11日

東京	1,511円(前日 1,507円)
大阪	1,481円(前日 1,624円)

[豚・全農建値] 7月11日

上	中	取引頭数	市況
922円	903円	1,147頭	強もちあい

と畜	牛 48頭	豚 100頭	牛概況	もちあい
売買	牛 102頭	豚 50頭	豚概況	まちまち

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 7月11日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	810 (810)	- (-)	5,580	-	もちあい
仙台 [中]	814 (750)	727 (636)	377	66	急反発
栃木 [地]	889 (878)	779 (799)	1,292	21	小幅高
茨城 [地]	925 (920)	873 (884)	1,204	289	小反発
群馬 [地]	926 (922)	832 (811)	1,620	269	小幅続伸
さいたま [中]	923 (923)	913 (909)	80	77	もちあい
東京 [中]	919 (912)	904 (901)	628	841	小幅上伸
横浜 [中]	926 (919)	894 (890)	598	590	反発
山梨 [地]	- (908)	- (872)	96	10	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	930 (929)	876 (872)	768	209	もちあい
京都 [中]	731 (826)	689 (759)	33	67	もちあい
大阪 [中]	- (910)	- (846)	100	-	上場なし
神戸 [中]	882 (787)	863 (790)	-	48	上伸
岡山 [地]	556 (665)	524 (649)	288	218	暴落
広島 [中]	885 (-)	838 (-)	255	44	続伸
福岡 [中]	863 (880)	830 (851)	436	73	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 7月4日～7月10日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,739,005 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,270	1,389	1,490	1,386	71,202
うで	890	961	1,038	968	117,872
ロース	1,166	1,234	1,324	1,236	180,855
ばら	1,301	1,404	1,484	1,414	159,356
もも	845	892	985	897	160,499
ヒレ	1,211	1,406	1,512	1,388	9,561
セット	1,103	1,134	1,247	1,158	1,039,660

◇近畿圏 総重量 701,032 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,328	1,458	1,534	1,433	59,782
うで	875	896	918	896	118,590
ロース	1,202	1,317	1,371	1,305	88,207
ばら	1,329	1,410	1,487	1,399	124,731
もも	860	907	961	914	160,819
ヒレ	1,242	1,359	1,513	1,356	10,643
セット	1,037	1,252	1,299	1,238	138,260

[食鳥正肉日経相場] 7月10日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	740	815	996	149
ムネ	501	553	686	161

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	716	779	1,030	4
ムネ	499	541	634	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 7月10日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,091	792	550	600	650
安値	710	478	290	360	350
平均	818	561	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

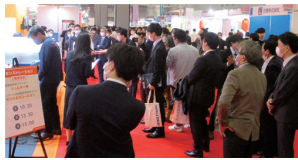
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します